

投入済み変数または除去された変数^a

モデル	投入済み変数	除去された変数	方法
1	高校進学率		ステップワイス法(基準: 投入する F の確率 $\leq .050$ 、除去する F の確率 $\geq .100$)。
2	強化モデル事業市町村別実施割合		ステップワイス法(基準: 投入する F の確率 $\leq .050$ 、除去する F の確率 $\geq .100$)。
3	電話相談執行額人口あたり		ステップワイス法(基準: 投入する F の確率 $\leq .050$ 、除去する F の確率 $\geq .100$)。

a. 従属変数: H21～23の増減率

モデル集計^d

モデル	R	R2 乗	調整済み R2 乗	推定値の標準誤差
1	.408 ^a	.167	.148	1.8648
2	.558 ^b	.311	.280	1.7150
3	.628 ^c	.394	.352	1.6269

モデル集計^d

モデル	変化					Durbin-Watson の検定
	R2 乗変化量	F変化量	自由度1	自由度2	有意確率 F変化量	
1	.167	9.012	1	45	.004	2.095
2	.144	9.208	1	44	.004	
3	.083	5.894	1	43	.019	

a. 予測値: (定数)、高校進学率。

b. 予測値: (定数)、高校進学率、強化モデル事業市町村別実施割合。

c. 予測値: (定数)、高校進学率、強化モデル事業市町村別実施割合、電話相談執行額人口あたり。

d. 従属変数: H21～23の増減率

分散分析^d

モデル		平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率
1	回帰	31.340	1	31.340	9.012	.004 ^a
	残差	156.487	45	3.477		
	全体	187.827	46			
2	回帰	58.420	2	29.210	9.932	.000 ^b
	残差	129.407	44	2.941		
	全体	187.827	46			
3	回帰	74.019	3	24.673	9.322	.000 ^c
	残差	113.808	43	2.647		
	全体	187.827	46			

a. 予測値: (定数)、高校進学率。

b. 予測値: (定数)、高校進学率、強化モデル事業市町村別実施割合。

c. 予測値: (定数)、高校進学率、強化モデル事業市町村別実施割合、電話相談執行額人口あたり。

d. 従属変数: H21～23の増減率

係数^a

モデル		非標準化係数		標準化係数	t	有意確率
		B	標準誤差	ベータ		
1	(定数)	-5.954	1.967		-3.027	.004
	高校進学率	.114	.038	.408	3.002	.004
2	(定数)	-5.362	1.819		-2.947	.005
	高校進学率	.115	.035	.412	3.292	.002
	強化モデル事業市町村別 実施割合	-.032	.011	-.380	-3.034	.004
3	(定数)	-5.595	1.729		-3.236	.002
	高校進学率	.130	.034	.467	3.861	.000
	強化モデル事業市町村別 実施割合	-.030	.010	-.356	-2.985	.005
	電話相談執行額人口あたり	-1.82E-006	.000	-.294	-2.428	.019

係数^a

モデル		B の 95% 信頼区間		相関係数		
		下限	上限	ゼロ次	偏	部分
1	(定数)	-9.916	-1.992			
	高校進学率	.037	.190	.408	.408	.408
2	(定数)	-9.029	-1.695			
	高校進学率	.044	.185	.408	.445	.412
	強化モデル事業市町村別 実施割合	-.054	-.011	-.376	-.416	-.380
3	(定数)	-9.081	-2.108			
	高校進学率	.062	.198	.408	.507	.458
	強化モデル事業市町村別 実施割合	-.050	-.010	-.376	-.414	-.354
	電話相談執行額人口あたり	.000	.000	-.237	-.347	-.288

(結果の要約)

女性においては、高校後進学率（大学等進学率）が低いほど、強化モデル事業市町村別実施割合が大きいほど、人口あたりの電話相談執行額が大きいほど、平成 21～23 年自殺率減少が統計学的に有意に大きかった。